

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2471000253
法人名	社会福祉法人 長茂会
事業所名	グループホーム わらべ
所在地 (電話番号)	尾鷲市大字南浦古里の上4689-1 (電話) 0597-25-2502
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 10 月 10 日(金)

【情報提供票より】 (H20年9月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算	13人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4)利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	9 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	尾鷲総合病院、長茂会診療所、東歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>尾鷲湾を一望する高台にあり、景観の良さと、周りを緑に囲まれた静かな環境が、訪れる人の心を落ち着かせてくれる。しかし、近辺に民家がないのが少しさみしい感じがする。事業所での利用者は全体に穏やかに落ち着いて過ごしておられ、職員もよく気配りをしている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員を育てる取り組みは、本年度4月より、新しい研修体制を作り、テーマを決めて(「対人援助」や「福祉制度」等)実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>一部の担当職員だけの取り組みにせず、職員全体の意見を集約してまとめている。2ユニットともに浸透している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>遠足や、花見などの行事予定の紹介や、防災訓練への参加依頼など、事業所のことを少しでも多く知ってもらえるようにしていくなかで、いろいろなイベントへの参加や協力が得られるようになっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情担当委員を決めており、一次苦情、二次苦情、三次苦情まで段階を追って対応している。困みに、一次苦情は施設内で解決できること。(月一回の職員会議等で)二次苦情は法人全体で共有し解決する(代表者会議で)、三次苦情は、弁護士等法人外のメンバーによる解決委員会に対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>いくつかの団体は定期的に訪問してくれるし、地域の人が散歩がてら立ち寄ってくれている。毎年、中学生の福祉体験学習を受け入れている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から事業所の運営理念として「自分の親として」ということを職員みんなのものにして取り組んできたが、さらに「地域密着型サービス」として、5カ条、10カ条を加え、気持ちの中でも理念として持っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や申し送りの際に復唱して、常に意識して利用者の支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いは年々充実してきている。定期的に訪問してくれる団体ができたり、地域のイベントへの事業所からの参加や、事業所のイベントへの地域の人からの参加など、交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一担当者任せでなく全員が意見を出し合った上でまとめているし、出された評価は、2ユニットの職員全員によく浸透させて、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に行われており、事業所の状況をメンバーの人たちによく知っていただくとともに、防災訓練への参加を呼び掛けたりできるようになってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行事に市町の担当職員を呼んだり、ケアマネネットワークへ参加したり情報交換を行いサービス向上に生かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一人ひとりの様子を手紙で知らせると同時に、金銭の報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望はあるが苦情はない。苦情の解決に関する態勢(一次苦情～三次苦情まで)をとっていて、もし、苦情が出された場合は、最後まできちんと解決できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力避けているが、今年は運営体制(調理体制)の変更があったため、それに伴い異動が発生したが、利用者、家族への連絡、説明をきちんと行い、利用者にダメージを与えないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修を定期化するとともに外部研修へも積極的に参加させている。また業務上必要な資格や免許の取得の援助も行い職員全体のスキルアップを目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、グループホーム協会の場合が主であるが、地域においては、同業者の見学訪問などは受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用に際し、納得ができるように、日帰りであるが体験の場を設けて徐々に慣れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「自分の親として」の心を持って喜怒哀楽を共にするなかで、野菜作りの方法を教わったり調理の方法を教わったりしながら、共に支え合っている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何かを訴えているときは必ず足を止めてきちんと聴くようにし、遠慮なく何でも言える雰囲気づくりや、信頼関係づくりに努めている。希望や意向が把握できた時は、職員間の連絡ノートに記載し全員で共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を昨年から中止し、みんなで介護に当たるようにしている。本人、家族とよく相談をして、ケアに関する希望などの把握に努め、介護計画に反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的に評価を行い、変化があれば必要に応じて計画の見直しを行っている。また、一人ひとりの「ケアチェック表」をつけて、家族にも意見をもらうようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの場所や、行きつけの美容室へ連れて行くなど、状況に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人、家族の希望に任せている。そのほか、協力医療機関等も利用し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所手続きの際、予め話し合っている。現在は緊急の事態になれば病院へ連れて行っている。	○	最初に話し合ったことを文書章化しておいたり、マニュアルを作成しておく等され、関係者全体の方針の統一を図られることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所として、一番気を使っていることであり、例えば、耳の遠い人をトイレ誘導する際の声のかけ方など工夫をしている。また、個人情報の記録は、鍵付きの書庫へ保管、管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否の人や、夜眠れない人への支援においても、その人その人のペースに沿って支援をするように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アンケートの結果を取り入れた献立にしたり、誕生日に好きなものを聞いて献立に取り入れたりと、献立そのものへの楽しみを作っている。食器を一緒に洗ったり、出来ることを手伝ってもらっている。	○	今年から職員は弁当を持って来るようになったそうであるが、できれば、職員も同じものを食べて、味や食べやすさなどを認識し、利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴はできるようにしており、2人ほど入浴拒否の人もあるが、押し付けにならないように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、お茶のパック詰め、新聞たたみ、モップかけ、ごみ捨てなど、気晴らしや楽しみの範囲で行なってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、散歩、ドライブ等できるだけ希望にそって外出の機会を持つようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないで済むように、建物の一部を改造されていて、夜間の防犯上の施錠以外は、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月定期的に、火災訓練、避難訓練を行っていて、それ以外、年に2回夜間を想定した避難訓練も行っている。地域の人々も参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家で過食のため体重が重くなっていた人は減量になったが、それ以外の人には体重を一定に維持できている。水分補給には特に注意をされていて、尿の色で判断したり、ペットボトルに印をつけて摂取量を把握できるようにする等工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダや中庭にベンチを置いたり、廊下の隅にソファやガーデニングテーブルを置いたりして、いつでも気軽に寛げるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室南向きの明るい部屋で、家具の配置も、今まで暮らしていた部屋の様子を参考にっていて、馴染みのものを置いている人も、持ち込みが少ない人も、それぞれに居心地良く過ごせるようにしている。		